

大杉谷国有林からの手紙

7通目 ~新しい取組~

尾根筋を吹く風に、少し秋の気配を感じる季節になりました。街の中では、まだまだこれから厳しい残暑の時期ですが、大杉谷の森林のなかを歩いていると、紅葉とまではいきませんが、緑の木々のなかに少し黄色や赤の葉も混じるのを見かけることがあります。自然は、確実にその装いを季節の変わり目にむけて進めています。

さて、9月24日（土）に、ボランティアの皆さんと一緒に大台ヶ原周辺の樹木の保護作業を行います。この活動は、平成12年から実施しています。初秋の日差しの中、皆さんも、樹木保護活動に、是非ご参加ください。

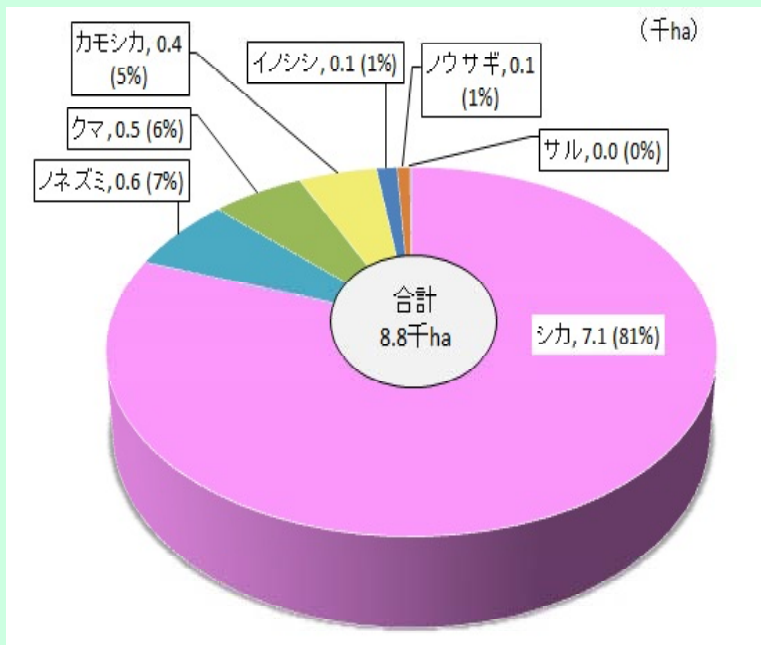
そこで、今回は、もう少し大杉谷国有林でのニホンシカ（以下、シカ）による森林被害対策を紹介いたします。

平成26年度のシカ等野生鳥獣による森林被害面積は、全国で約9千haで、近年は、ほぼ横ばいで推移しています。

このうちシカによる枝葉の食害や剥皮被害が全体の8割を占めています。

以前のこの紙面でお話したように大杉谷国有林においては、大型台風による森林の変化によって、急激にシカが増加し、植栽木だけでなくトウヒやツガ、コケ類の消失など希少な生態系が影響を受け、土砂の流出や崩壊につながるような箇所がみられるようになっていきます。

これまで、三重森林管理署では、大杉谷国有林の貴重な生態系を保全し、豊かな森林をとり戻すために「大杉谷国有林におけるニホンシカによる森林被害対策指針」を平成24年度に定



野生鳥獣による森林被害面積(出典:林野庁)

め「大杉谷国有林におけるニホンシカによる森林被害対策指針」を平成24年度に定

め、ボランティア参加による樹木保護活動、植生保護柵による稚樹の保護、シカの生息状況調査、未立木地への地域性苗木の植栽事業、専門家を交えた森林被害対策の定期的な検討会の開催等を行っています。これらの取組については、これまでの手紙の中でご紹介しましたが、今回は、今年度から始めた新たな取組を紹介します。

シカの捕獲について、大杉谷国有林では、これまでも、モバイルカリングなど新技術の実証を行ってきましたが、今年度は、ワナによるシカの本格的な捕獲を実施し、実施状況の分析、検証を行い、今後の捕獲効率の向上を図ることを目的に以下の目標を定めて、取組を行っています。

(1) 地域の担い手の育成・確保、対策コストの軽減：①捕獲協力者として想定している地元関係者の方々に捕獲を通じて生態系等の地域資源を守ることへの意義を理解してもらう勉強会の開催。②「衛星通信」、「無線通信」等を用いて捕獲の労力を低減させる方法の検討。

(2) 錯誤捕獲が発生しないための捕獲手順の確立、発生した場合の体制づくり：①捕獲を実施する箇所でカモシカ、ツキノワグマの生息状況を事前に自動撮影カメラを用いて錯誤捕獲の可能性を把握した上で捕獲を開始することを徹底。②連絡体制の明確化、関係機関への事前説明の徹底。



林内に設置した自動撮影カメラ

(3) 対象とする個体群毎の目標と期待される効果：今までの調査で、大杉谷国有林及び大台ヶ原の周辺には「定住個体群」と「季節移動個体群」が生息していることがわかりました。そのことを踏まえて①定住個体群については、林道周辺を中心とした「誘引を伴うくくりわな」、「囲いわな」を実施。囲いわなによる捕獲は自動撮影カメラによるモニタリング結果により実施を検討。②季節移動個体群の移動状況を把握方法の確立、把握後には迅速で効率的な捕獲の実施被害の低減③移動経路に新設した防護柵において自動撮影カメラを用いて移動状況を把握して、「誘引を伴うくくりわな」による捕獲を実施。



シカを誘導する防護柵

今までの生息調査の結果により想定した移動経路に防護柵を設置し、シカを誘導して捕獲することや奥山である大杉谷において「衛星通信」、「無線通信」等を用いたワナで捕獲するなど、今後の効果的な捕獲に役立つものが得られればと考えています。この取組については、またこの紙面の中でお知らせしますので楽しみにしてください。

(発行:三重森林管理署 尾鷲森林事務所 地域統括森林官)